

平成 30 年度森林吸収源インベントリ情報整備事業 全体説明会

開催日時:2018 年 5 月 16 日(水)13:30 ～ 16:00

場所:森林総合研究所 大会議室

北海道支所、関西支所、四国支所、九州支所(TV 会議)

参加者(森林総研):平井、相澤、石塚、稲富、古澤、小林、森、田中、森貞、橋本(徹)、伊藤(江)、梅村、野口、岡本、酒井(寿)、酒井(佳)、稲垣(昌)、鳥山

参加者(受託者):杉浦・川尻・仲澤・中島[(株)セ・プラン]、南・今野[(株)環境テクニカルサービス]、藏重・高野[(株)宮城環境保全研究所]、江田・池田[ソシオエンジニアリング(株)]、林[東京パワーテクノロジー(株)]、田中・北井[(株)一成]、内田・田中・城戸・中園・岡田・中川・上塚・山本[(株)九州自然環境研究所]、高谷・藤田・瀬戸坂・岡村・糸賀・天野[クリタ分析センター(株)]

参加者(林野庁森林整備部森林利用課):河野・笠井・松本

スケジュール

13:30 開会

13:35～ 講義

- I H30 年度実施計画
- II 事業実施に関する準備と実行
- III 野外調査方法
- IV 野帳様式変更に伴う入力フォームの変更
- V 試料の調整と分析
- VI データの品質管理と成果の提出

15:40～ 全体質疑

16:00 閉会

概要

試料収集分析業務に関わる業者を対象に、調査方法、データ提出方法等、今年度のインベントリ事業の進め方を説明した。林野庁河野課長補佐の挨拶の後、議題に沿って各項目の解説と質疑応答をおこなった。精度の高い調査を行うために野外調査、データ入力、試料調整・分析、データの品質管理と提出について具体的に説明した。今年度は野外調査マニュアルを改訂し、堆積有機物採取枠を配布したので、改訂による修正点や野帳の記入方法の変更点と、堆積有機物採取枠の使用方法について説明した。また、昨年度不実施率がやや高かったことを受け、今年度は調査実施率の向上を目指して不実施理由の精査を行うことを説明した。調査方法に関しては、昨年度の仮提出データ点検で注意が必要と考えられた枯死木調査対象外の判別、大円半径の設定、ブロック採取時の設定範囲、堆積有機物層と鉍質土層の境界判定について重点的に説明した。特に堆積有機物層と鉍質土層の境界判定については、可能な限り現地講習会を境界判定の実習

に適した地点で行うことと、必要であれば要注意地点の調査に講師が同行する計画であることを伝えた。質疑応答では、外周杭の設定方法、到達情報の記入内容、堆積有機物の判定講習の予定を中心に質問があり、対応等を回答した。講義と質疑応答を通して調査の要点と実施率向上のための取り組みが確認できたと考えられる。

記録写真

